

播磨昆虫民俗資料館

HARIMA INSECTA HISTORICAL MUSEUM

『昆虫の自然科学と民俗資料』極楽とんぼの館へようこそ

〔設立目的〕 昔の子供は、かつてセミとり、トンボとりなどして昆虫と遊んだものです。しかし近年の教育においては昆虫採集など、いけないものと定着しているようです。このままでは古い昆虫文化が断絶してしまうのではないのでしょうか。小さな昆虫のなかに色や形の美しさを発見したり、学んだりすることが高度成長に明け暮れた日本にも今一度必要かともおもわれます。当館を設立することにより昆虫の自然科学知識と民俗的知識を培うことを目指したいとおもいます。

〔主な特徴〕 地域の自然を加味しながら、生物学的、歴史的に理解しやすく展示し、暮らしと昆虫、害虫と益虫、昆虫民俗を中心に昆虫館機能をもたせた展示をしています。とくに昆虫にまつわる玩具、民具、民芸、工芸品などグッズ類は市井の人々の虫への関心の有りようをさぐるのに相応の意味があるように思われます。近年、虫嫌いの人々の急増は、虫の工芸品や玩具類まで消滅させつつあります。消えゆく“民俗的昆虫”たちを集めて当館は文化的事業をめざしたいとおもいます。

このように播磨昆虫民俗資料館は昆虫の自然科学と暮らしにまつわる昆虫の民俗を中心に昆虫館としてできています。

第一展示室は昆虫標本展示コーナーとなっています。昆虫化石や世界のチョウ、郷土の昆虫などを展示しています。また、企画展、特別展のコーナーとなっています。常設として郷土の昆虫凧が飾られています。

第二展示室は昆虫にまつわる民俗資料のコーナーとなっています。民芸品、工芸品、玩具、生活防虫道具などがおかれています。また、このコーナーには昆虫宮殿があり、暮らしと昆虫のかかわりが展示してあります。

第三展示室は郷土の偉人コーナーとして、生物学者 森為三博士の蒐集された文献、著書などの資料が展示されています。

第四展示室は珍竹林コーナーとして、竹でできた昆虫民芸品、及び郷土が輩出した世界的竹学者 室井綽博士の竹文献資料などが展示してあります。竹の地下茎にちなみ地下室になっています。

【当館の主な事業】

- ・資料館資料の充実と収集。保管整理と展示。
- ・講演会、講習会、研究会等の開催。
- ・資料館資料に関する調査研究、並びに刊行物の発行。
- ・昆虫の飼育

【ご利用の御案内】

- ・開館日時 毎月、第2土曜日と第2日曜日。その他、祝祭日、日曜日など電話にて予約受付し随時に観覧願う。
- ・開館時間 午前10時～午後5時
- ・入館料 無料
- ・お問い合わせさき

〒678-12 赤穂郡上郡町岩木堂ノ元394番地

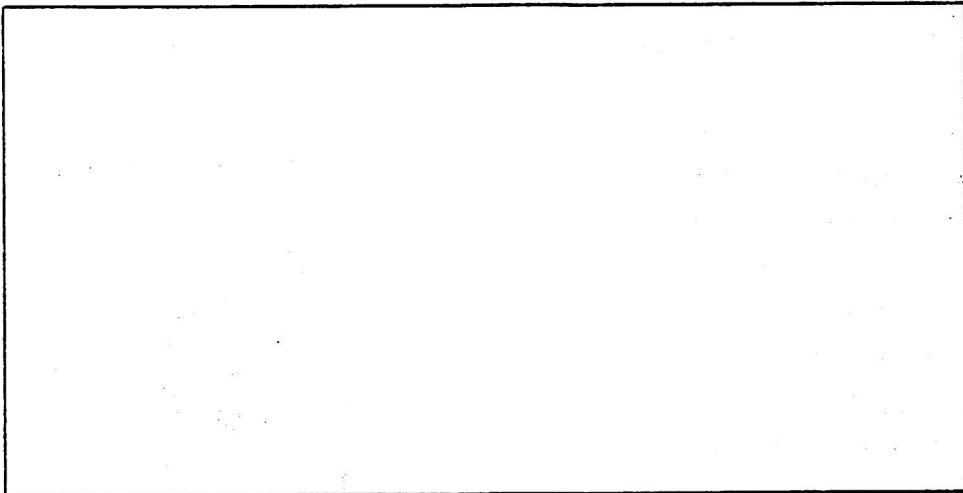
播磨昆虫民俗資料館 07915-2-6089

〒671-11 姫路市

相坂耕作

0792-36- まで

【交通案内図】



【交通】

- ・車で……国道2号線有年より国道373号線上郡へ
- ・JRで…山陽本線上郡駅下車タクシーで約5分

展示案内

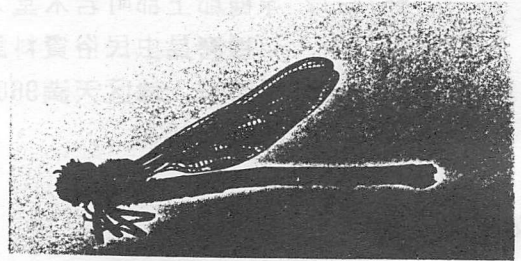
第1展示室 昆虫の世界

昆虫ほどいろんな環境に適応して、繁栄している生物は他にありません。これらから世界の昆虫をながめながら、郷土の昆虫を見てみましょう。

- ①世界の昆虫
- ②日本の昆虫
- ③播磨で見られる身近な昆虫
- ④特徴ある昆虫
- ⑤害虫、益虫など
- ⑥化石になった昆虫

化石昆虫ムカシトンボ

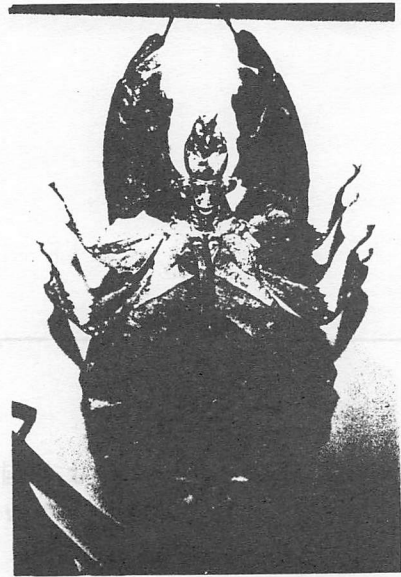
ムカシトンボのなかまは、1億5千万年前ころに栄え、60種近くの化石を残して、ほとんど絶滅してしまいました。現存種は日本のムカシトンボとヒマラヤに生息するヒマラヤムカシトンボが知られています。



ヒマラヤムカシトンボ

絶滅危惧種ベッコウトンボ

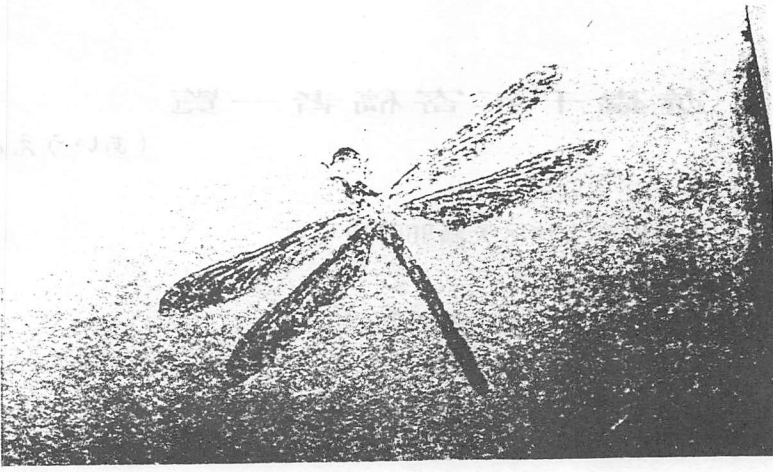
このトンボの生息地は都市化により開発、埋め立てなどで多くの生息地が失われてしまいました。数多くの昆虫のなかで、もっとも絶滅の可能性の高い種類とされています。



擬態で有名コノハムシ

熱帯アジアに分布するコノハムシは木の葉そりの姿に進化して身を守っています。

コノハムシ



トンボの化石

第2展示室 昆虫の民俗

昆虫もわれわれの生活のなかに暮らしと密接に関係しています。これらから、民芸、工芸、玩具などをみてみましょう。

第3展示室 森為三博士記念室

姫路市出身で、勲2等瑞寶賞を受けられた初代兵庫県生物学会会長の森為三博士。その理学博士証書及び各種の記章、また戦前の著書「朝鮮の蝶類」などが展示してあります。

第4展示室 珍竹林

竹でできた昆虫民芸品、竹ひごの虫箒などがみられます。また郷土、上郡出身の竹学者室井綽博士の竹文献、珍品の竹標本をみてみましょう。

